

国民意識に基づく社会資本政策体系の提案

国土交通省国土技術政策総合研究所 正会員 栗原真行
 国土交通省国土技術政策総合研究所 藤本 聡
 内閣府沖縄総合事務局北部ダム事務所 山下武宣

1. はじめに

中央省庁の再編にあわせて導入された政府機関の政策評価においては、先行的な事例である米国、英国の政府機関などの政策評価で用いられている「業績評価」が重要な役割を担うことが想定されている。その前提となる、機関の使命に基づく政策体系と政策目標が国土交通省においても 2001 年 1 月に公表されたところであるが、そこに含まれる個別の政策が、その究極の目的である国民の満足にどのように結びついていくかについて、まだ未知の部分が多い。

そこで本研究では、国土交通省の社会資本政策について、国民ニーズの背後にある意識構造に着目して、その体系化を試みたものである。

2. 政策体系の提案

ここでは、「社会資本に係る各種の取り組みを通じての国民満足度の向上」を社会資本政策の使命と定義してその体系化を試みることにする。

政策体系は、米国等の先例にしたがって、使命～主要政策カテゴリー（数個）～政策カテゴリー／見出し（20～30 個）～個別政策（100 個以内）とする。これらの事例において、政策全般を網羅し、かつその動向をすみやかに把握するのに適当な規模と認識され、いずれも同様の体系が採用されていることによる。

これらの政策について、国民すなわち人間の意識を念頭において、社会資本に対するニーズに着目して体系化を図ることとする。ニーズすなわち欲求であることから、マズロー（Maslow）の欲求階層説を念頭において体系化を行うものとする。

まず、政策評価の事例で取り上げられている政策あるいは評価指標として用いられているものを幅広く抽出し、類似したものを KJ 法により集約し、個別政策とする。同様に、個別政策を集約して政策カテゴリー（見出し）とし、さらに集約したものを主要政策カテゴリーとすることにより、政策体系が構築される。

キーワード：社会資本、政策評価、心理学、住民満足度、意識調査
 連絡先：茨城県つくば市大字旭 1 番地 総合技術政策研究センター
 TEL:0298-64-2872 E-mail:GDA00600@nifty.com

表－1 欲求階層に基づく社会資本政策体系

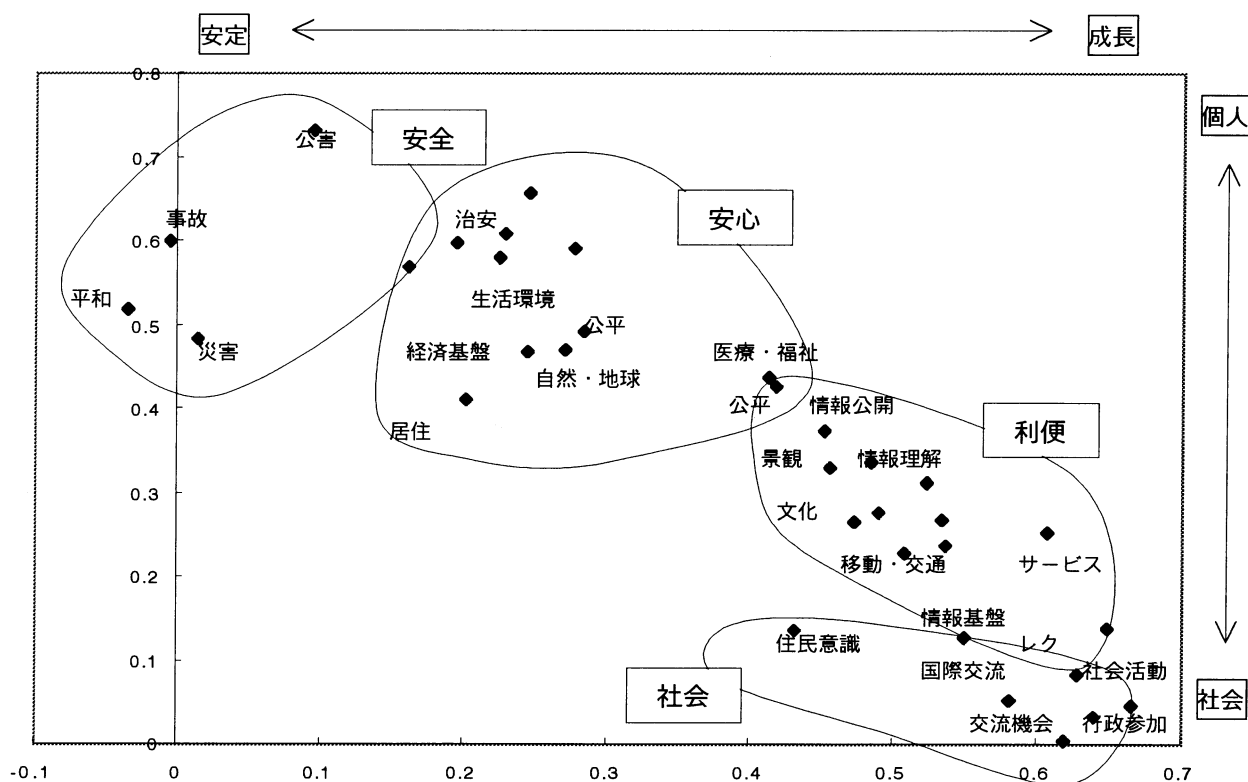
欲求階層	政策体系（社会資本政策）		
	主要政策	政策カテゴリー	個別政策（アウトカム目標）
生理的欲求 安全と安定	生命 安全	1災害からの安全	災害発生、被害実績 防災体制（カバー率など）
		2事故からの安全	事故発生、被害実績 安全性（安全な道路割合など）
		3公害からの安全	公害発生、被害実績
		4平和	
	安心	5居住	住宅水準（基準達成度など） 居住環境（通勤時間、利便性、日照など）
		6生活環境	空気・水のきれいさ（透明性、満足度など） ごみ・下水（まちの清潔さ、適正処理など）
		7医療・福祉	医療・福祉施設アクセス（時間、カバー率など）、バリアフリー
		8治安	治安、風紀のよさ
		9経済基盤	企業立地、売り上げ、雇用
	利便	10移動・交通	道路の移動所要時間、渋滞時間・混雑度など 交流人口・交流エリア（日帰り交流圏など）
		11サービス	商店・公共施設アクセス（時間、カバー率）
		12情報基盤	情報アクセス・利便性（カバー率、料金）
		13レク等の機会	アクセス・利用状況（カバー率、満足度）
愛・集団所属	人間関係	14住民意識	コミュニティ意識割合、満足度
		15交流の機会・場	地域活動等参加者数、満足度
	社会	16行政参加	行政への住民参画状況、満足度
		17社会活動	社会活動参加状況、満足度
自尊心・他者の尊敬	国際協力・交流	18国際協力・交流	国際協力・交流活動参加状況、満足度
		19情報公開・提供	情報公開・提供（情報公開率）、満足度
	知ること	20情報共有・理解	行政への理解度、行政に対する評価
		21景観	街並・景観への対応、美しさの認識、満足度
	美しさ	22文化	文化・歴史資源の保全、豊かさ認識、満足度
		23自然・地球	自然の豊かさ、保全状況、満足度 地球環境・資源の保全状況、環境意識
	正義	24正義	社会・行政の公正の認識度
		25公平	社会の公平の意識度、弱者配慮の意識度

(注)個別政策は一部を省略して記載している。

以上の考え方にもとづき、政策の抽出とカテゴリー化を行い、欲求階層に対応するよう並べ替え、整理したものが表－１である。

3. 住民意識調査

表－１の政策体系について、３つの地域（仙台市、茨城県取手市、同真壁町）の住民を対象に意識調査を行い（２００１年２月）、検証を試みた。質問は表－１の政策カテゴリーの各項目についての重視度を５段階で問うもので、その回答について因子分析を行い、類似項目を集約してみた。その結果、各政策カテゴリーは、マズローの欲求階層と厳密には一致しないものの、その発展形としてアルダファ(Alderfer)が提案した ERG(Existence-Relatedness-Growth)モデルに近い形で体系化を行うことが可能と考えられる（図－１）。



図－１ 社会資本政策に対する住民意識

4. まとめと今後の課題

今回は、社会資本政策の上位部分について、政策に対する国民ニーズの背後にある意識構造に着目し、その体系化を試みた。住民に対する意識調査の結果からは、このような視点で整理を行うことは概ね妥当であると考えられる。

今後は、さらに検証を進めるとともに、下位の個別政策との因果関係を明らかにして国民意識に立脚した社会資本政策体系のあり方を探っていくこととしたい。

<参考文献>

- 1) 栗原、藤本、山下、臼田、青木：社会資本政策の評価のためのベンチマークに関する一考察，建設マネジメント研究・論文集（土木学会建設マネジメント委員会）Vol.8, pp.179-188, 2000年
- 2) 青木、栗原、臼田、山下：社会資本整備に対する住民ニーズの把握，日本都市計画学会論文集，No.35, pp.997-1002, 2000年